

検査項目（採血）		検査の目的・考え方	
血管への影響（動脈硬化の危険因子）	脂質	中性脂肪	エネルギー源ですが、多くなりすぎると動脈硬化の原因になります。
		HDL（善玉） コレステロール	血管壁に付着した余分なコレステロールを回収して肝臓へ運搬、処理します。血液中の量が少なくなると動脈硬化が促進します。
		LDL（悪玉） コレステロール	肝臓で合成され、全身にコレステロールを運んでいます。血液中の量が増えると血管内にたまり、動脈硬化を促進し、心臓病や脳卒中を招きます。
		AST（GOT） ALT（GPT）	AST、ALTはアミノ酸の合成に必要な酵素です。主に肝臓の異常を調べます。これらの数値が高いとウイルス性肝炎、アルコール性肝炎、脂肪肝などの肝障害が疑われます。ASTは急性の肝・心筋障害に反応し、ALTは、肝臓の障害に顕著に反応するため、両者の比較で病気の種類を推測できます。
	代謝機能	γ-GTP	たんぱく質の分解に必要な酵素です。肝臓や胆道に異常があると数値が高くなるため、肝臓障害を見つけるてがかりになります。飲酒により上昇することが多く、アルコール性肝障害の指標になります。
		空腹時血糖	血糖とは血液中のブドウ糖のことです。ブドウ糖がエネルギーとして適正に細胞に取り込まれていないと血糖値が高くなり、糖尿病になると数値が高いままになります。
		HbA1c	過去1～2か月にわたる血糖の状態を推定できます。
	貧血	尿酸	細胞の成分のプリン体が分解されたときにでき、一定量は体内に保たれ、高い状態が続くと痛風になります。
		赤血球	血液中の赤血球の数が不足すると酸素を運ぶ能力が落ち、貧血になります。多い場合は多血症等の可能性があります。
		血色素	赤血球に含まれるたんぱく質です。血色素が少ない場合、鉄欠乏性貧血の可能性がります。
	腎機能	ヘマトクリット	血液に含まれる赤血球の割合を調べています。濃度が低い場合は、貧血の可能性がります。濃度が高い場合は血管が詰まりやすい状態になっている可能性があります。
		クレアチニン	老廃物の一種（たんぱく質の燃えかす）です。腎臓でろ過され、尿として排泄されますが、腎臓機能に異常があると排泄されず、血液中に増えます。
eGFR		糸球体ろ過量のことで、クレアチニンから腎臓の働き具合を予測します。	

<小児生活習慣病予防健診 血液検査項目>

- 脂質（総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール）
- 糖 {HbA1c（小学校6年生・中学校2年生を対象に実施）}
- 貧血（赤血球・血色素・ヘマトクリット）



今回は「血液」をテーマに血液とは何か、健診の採血項目の目的と考え方を取り上げました。健診は健康づくりのスタート地点です。

健診についてよく理解して、これからの健康づくりに生かしてみてください。健診の詳細については「大田原市民健康診査のご案内」冊子をご覧ください。

次回は健診結果の数値と比較して、今、あなたのからだで起こっていることがわかる「からだの未来予想図」についてお伝えします。

問 健康政策課 **東** 1階 「健康おたわら塾」では、さまざまな健康情報をお届けしています。
TEL (23) 7601 さらに詳しく知りたい方は、健康政策課へお問い合わせください。

健康

おおたわら塾

血液について知ろう！

～体の疑問を知りたい！ 体のしくみを知ることが健康づくりへの早道です～



血液は、からだ全体に栄養素や酸素を運んだり、老廃物を回収しています。

血液を調べることで、からだの状態を知ることができます！



からだのどこをけがしても血が出ることからわかるように、血液は全身を流れています。全身を流れる血液量は体重の約13分の1を占めます。

たとえば



体重 60 kg

の人の血液量は、
 $60 \times 1 / 13 = 4.6 \text{ l}$ になり、



2 l のペットボトル
2 本分以上になります。

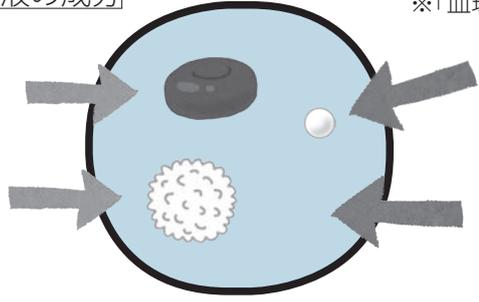
血液は、私たちのからだの中でどのような役割や働きを持っているのでしょうか。

血液は大きく4つに分類され、主に6つの働きがあります。

血液の成分

①赤血球
酸素や二酸化炭素を運ぶ

②白血球
侵入した異物を殺す



③血小板
血液を固まらせる

④血しょう
水分、栄養素、老廃物、ホルモンを運ぶ

※「血球」には、赤血球、白血球、血小板があります。

6つの働き

- 1つ目 酸素と二酸化炭素のガス交換
- 2つ目 栄養素の運搬
- 3つ目 ホルモン(体の調子を整えるもの)の運搬
- 4つ目 老廃物の運搬
- 5つ目 生体防御反応(異物を攻撃して排除する。出血をとめる。)
- 6つ目 体温調節



このように、血液は、全身を巡って、からだのすみずみに酸素や栄養素を届けると同時に、二酸化炭素や老廃物を回収する役目を担っています。

そのため、血液には全身の健康状態がよく反映されます。つまり血液検査は、血液の病気はもちろん、全身の状態を把握するために欠かせない検査といえます。

大田原市の基本健診の採血項目は、動脈硬化によっておこる生活習慣病を予防する目的で実施しています。右記にご紹介します。

また、子どものときから血液でからだの状態を把握するために、大田原市では小学校5・6年生、中学校1～3年生を対象に学校健診対象外の血液検査を「小児生活習慣病予防健診」と位置付け実施しています。

受診率は平成27年度で小学生98.6% 中学生97.8%でした。